第16回研究大会

口頭発表「いのちってあったかい」
－学校飼育動物の有効活用について－

八木良子

はじめに

去年の全国学校飼育動物研究大会で「ユキノスケ事件」について知りました．2005年５月８日深夜に東京都江東区で少年数人が小学校の飼育小屋からウサギを持ち出し，すり鉢状になったローラースケート場でサッカーボールのようにけり死なせてしまったという，なんとも痛ましくやりきれない事件です．しかし，その数人の中に一人だけ「やめてくれ」と訴え続けた少年がいたそうです．その少年は，小学生の時に飼育委員会を経験していたといいます．ここにかすかに光を感じたのはわたしだけではなかったと思います．

学校飼育動物はその「生・生まれる．生・生きる．病・病む．老・老いる．死・死ぬ」という命の営みを児童生徒にみせてくれます．その営みに児童や生徒が寄り添うことが出来れば，その体験は精神的成長に大変有効であろうと考えられます．

教材として命あるものを活用することは難しい面や解決しないといけない問題がたくさんありますが，その労をしてあまりある利点があると考えます．

拙い実践例ではありますが，小学校の学習，特別活動で学校飼育動物を活用した取り組みをご紹介したいと思います．また，ずっとサポートしてくださっている獣医師や地域の方についてもご紹介したいと思います．

１　「いのちってあったかい」ふれあいを多くするために　実践報告

(1) 授業での活用

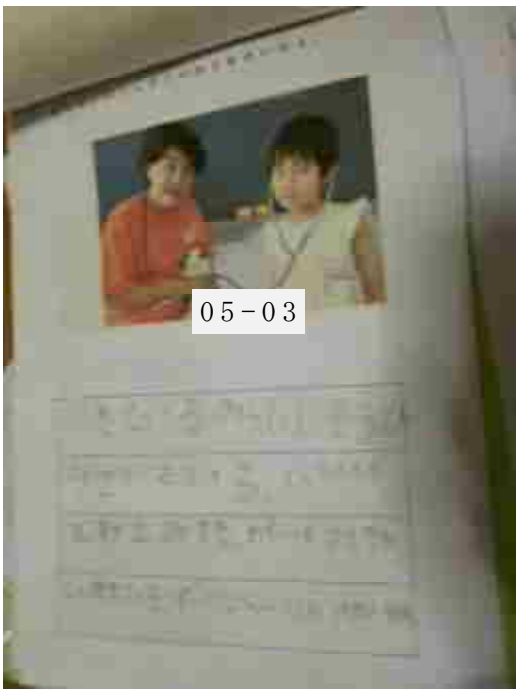
①１年生　生活科　国語　道徳

１年生は入学して早い段階で学校探検をおこないます．彼らにとっては飼育小屋は大変興味を持つところのようです．かわいいウサギにはやくえさをやりたい，だっこしたいというので獣医さんからお借りした「うさぎのきもち」という紙芝居でウサギとの接し方を学びます．「ウサギも人も同じように知らない人がきゅうにだきついてきたらびっくりするよね」「こわがるかもしれないね」「大きな声をだしたらだめだね」等と感想をいい合います．

児童は，ウサギの役をやったり人間の役でおいかけまわしたり耳をつかもうとしたりと役割練習をすることでより動物の気持ちに近づくことができたようです．

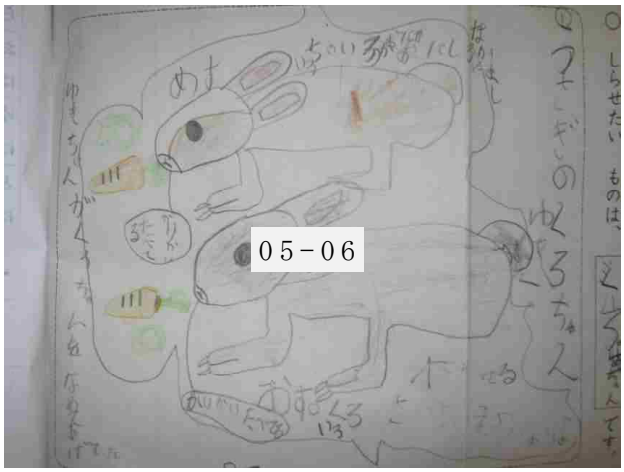
この後は，休み時間などにウサギの遊んでいるところを観察したり，飼育委員会のお世話する様子をみたり，委員会がひらくふれあいタイムに参加したりするようになりました．さらに，生活科や道徳の授業などで児童はウサギとの次のようなふれあいを深めていきました．

・えさをやる
・なでる
・だっこをする



・心音をきく
・うさぎの絵をかく
　そのような経験を重ねて2学期には，「いきものだいすき発表会」をすることにしました．
・うさぎのとくちょう
・うさぎのせわ
・うさぎのしょうかい
・うさぎのたべもの
・うさぎこやのこと
・うさぎにふれて
・うさぎのクイズ
・ほかのいきもの

　上記の８つのグループにわかれて調べたり画用紙に書いてまとめたりして発表会をすることができました．



　国語の「しらせたいな，みせたいな」では飼育小屋のうさぎについて観察しメモをつくり作文をするという取り組みをしました．児童は４月からなじみのあるウサギたちなので，この観察メモをもとに「おかあさんもみにきてください」とかわいいよびかけの作文をかいていました．
（2013年　野芥小学校１年生など）

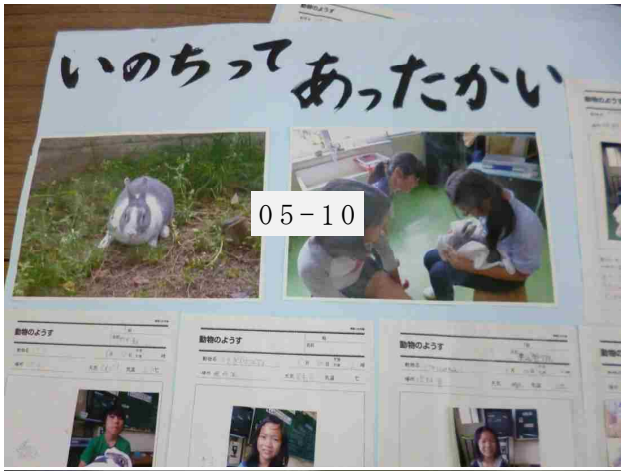
②４，５，６年生　理科　図工　道徳

４年生理科「季節といきもの」で飼育小屋のチャボやウサギを観察して観察記録を書くようにしました．チャボやウサギを小屋の外にだして草地のところでの行動を観察すると新しい発見を喜んで報告してくれました．

「先生，チャボが砂のところにしゃがんでるよ」

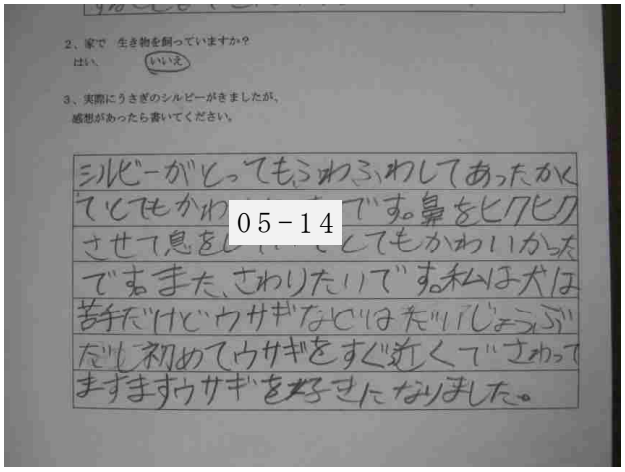
「先生，羽の中に砂がたくさん入っているよ．気持ち悪くないのかな？」「気持ちよさそうだね」

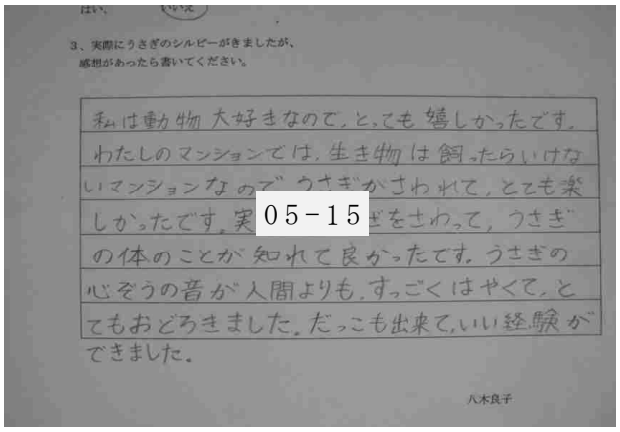
５年生理科　「生命のつながり」の学習で人の誕生とおなじくウサギやニワトリ，メダカの誕生についても調べ学習をしました．チャボやウサギについてだっこする経験が初めてという児童もおり，神妙な面持ちで緊張している姿もみられました．小動物をだっこした写真をはった観察記録カードを授業参観ののち保護者にみてもらう機会がありました．「マンションで小動物を飼うことが許されないので学校で初めてウサギやチャボに触れたようです」「家に帰ってきてからたくさん報告してくれました」「こわがりなので，ウサギには触れることができないと思っていました．笑顔で写真に写っているのが不思議な位です」などと保護者に予想以上に好評でした．



６年生理科　「体のつくりとはたらき」の学習で班にわかれて体の各器官について調べ学習をし発表させました．人と他の動物と同じところ違うところを調べ，発表した班がありました．うさぎを教室に連れてきて，心拍数をはかったり心音を聞いたり，耳の毛細血管を観察したりしました．児童はウサギをひざにのせその温かさを感じ，心音を聞き，「いのちを感じた」「先生，ウサギの鼓動がとてもはやい」とそれぞれ感想を述べてくれ

ました．
（2014年飯倉中央小学校など）





飯倉中央小学校の6年生に理科「人の体のつくりとはたらき」の学習を終えたときにアンケートをとりました．人体の各器官のつくりとはたらきについて調べ学習をし発表するという活動時に教室にウサギを連れてきて活用した場面がありました．その活用についての感想を自由記述とし振り返りました．

Q現在，家で生き物を飼っていますか？（43名中）

・犬，猫，うさぎなどを飼っている：９名
・亀，虫，鳥，魚，ハムスター，モルモットなどを飼っている：14名
・生き物を飼っていない：20名

Qうさぎを活用したが感想を自由記述してください．との問いには，下記のような言葉を入れながら感想を書いていた．どの子も活用が有効であったと述べていました．（複数回答あり）

・うさぎをひざにのせたときの感想（ふわふわ，もこもこ）：11名
・うさぎをひざにのせたときの感想（あたたかさ，重さ）：８名
・心音を聞いた感想（速い，ドキドキ聞こえたなど）：22名
・耳の毛細血管：３名
・うさぎの便（ポロポロ）：２名

授業でうさぎにはじめてさわったという児童が30名近くおり，触れる前は、こわい，苦手と感じていた児童が10名いましたが，ウサギに触れてみて，観察したり，感触を言い合ったりした学習後はほとんどの児童ががまたうさぎとの接触を望むとこたえていました．（一名，やはりこわいので更に触れ合うことは希望しないと記していました．）

学校飼育動物といろんな場面で触れ合う機会があれば児童は「いのちってあったかい」と体感することができます．そして，その経験が児童の情緒を安定させたり，豊かな情感を育てたりすることになると思います．そうなってこそ，学校飼育動物の存在意義があると思います．さらに学校飼育動物を活用した授業や取り組みを工夫していきたいと思います．

(2) 特別活動での活用（委員会活動等）

日常の委員会活動に加え，児童が積極

的に取り組んだ活動について

①冬越しの工夫

九州とはいえ真冬の飼育小屋は大変寒さが厳しいのです．穴をほって中にいることができる巣は大丈夫ですが，最近の飼育小屋の土は砂場の砂のような感じです．うさぎが穴をほると陥没して不幸にも命を落とす事故も時折耳にします．

＜わらの利用＞

脱穀がおわったわらをくださる農家の方がおられます．そのわらを飼育小屋の金網に児童が上手に挿していきます．これだと寒い季節の風を防ぐことができます．児童のよびかけで飼育委員ではない児童も手伝ってくれます．

＜プチプチシート＞

冷たい風を防ぐために梱包用シートを飼育小屋の周りに取り付けます．安価で手に入り，また暖かくなったら簡単にとりはずすことができ便利です．

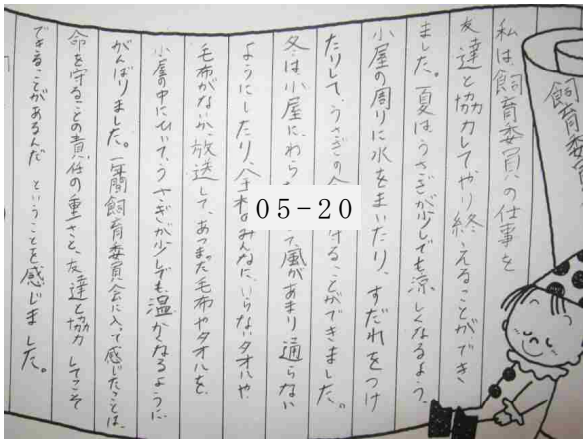
＜段ボール製ラビットハウス＞

段ボール箱，発泡スチロール板（１cmくらいの厚さのあるものや，廃棄パネルなど，プチプチシート）それとガムテープがあればできる段ボール製ラビットハウスは，児童にも扱いやすく，高学年の委員が主導してみんなで協力して作成することができます．

＜「いらない毛布やタオル」＞

ウサギが冬越しをできるようにポスターで全校によびかけて集めます．小屋の中にケージをいれなるべく暖かく過ごすことが出来るように工夫してやります．

「いのちってあったかい」を合い言葉にウサギに触れ，だっこし，世話をしている委員会の児童たちは，冬場ウサギたちが少しでも暖かく過ごせるようにいろんな工夫をし，またまわりにもポスターや放送で協力を呼びかけました．



②死について

「生・老・病・死」と命の営みに寄り添う内にどうしてもさけられないのが「死」です．かわいがっていた飼育動物が獣医さんのところに入院したまま，もしくは朝飼育小屋の中で死んでしまうという事があります．以前は児童の目に触れることなく埋葬してしまうことが多かったのですが，ある時マリーナ動物病院の伊藤先生が花で遺体を丁寧にかざって「飼育委員の子にはお別れをさせてあげてくださいね」と言われて私の考えが変わりました．

希望する委員の児童には呼びかけてお墓を一緒につくりました．遺体を見せるのはまだはばかられる低学年の児童には，高校生が描いてくれたイラスト（ウサギが天使に抱かれている）を掲示板にはり，死んだことを伝えました．一生懸命お世話をしてきたことを思い出す児童，最近は世話が疎かになっていたと後悔する児童，思いはいろいろですが，ちゃんとお別れの区切りをつけるのも大切なことだと思いました．

（2011年，2012年福重，城南小学校など）

２学校飼育のサポートについて

(1) マリーナ動物病院　中岡典子先生の取り組み

わたしがこの中岡医師と知り合ったのは初めて飼育委員の担当となった2007年でした．それからずっと，いろんな面で教えていただきサポートしていただいています．彼女とマリーナ動物病院のスタッフのみなさんの活動についてご紹介したいと思います．

a　治療

福岡市の教育委員会と獣医師会の援助である程度の病気やけがについて一定の書類での手続きをすれば治療が無料で受けられることをし知りました．できる範囲で丁寧に対応をしてくださいます．

b　ゲストティーチャーとして（生活科や道徳）

富岡医師のお姉さんが描かれたという紙芝居「うさぎのきもち」でウサギとの接し方を低学年の児童に福岡市西区　マリーナ動物病院

わかり易く教えてくださいました．また人の心音を聞いて「いのち」について考えるきっかけを作ってくださいました．

いのちの話＜中岡院長＞

どきどきゲーム　（心音を聴かせている）
＜富岡獣医師＞

c　ゲストティーチャーとして（飼育委員会）

飼育委員会の児童にうさぎの世話の仕方を教えてくださいます．そのときの学年や生徒の発達段階に合わせて教室や屋外での実地の研修も入れてくださいました．実際にウサギの抱き方や小屋の掃除の仕方，えさのやり方を教えてくださいました．

福重小学校

城南小学校

d　飼育環境の点検

ずっと空いていた飼育小屋を再開する時には，土の状況，飼育小屋の環境を調べてくださいました．アドバイスにしたがって土の入れ替えをしたり，消毒をしたり小屋の前庭に野菜畑をつくったりクローバーを育てたりしました．（20011年　城南小学校）

e　多頭飼いについての指導

ある学校がうさぎが増えすぎて困っていたところ，

・雌雄判別
・雌雄別室飼育
・雄うさぎの去勢をしてくださいました．

雌雄判定（伊藤獣医師）

去勢手術（中津獣医師）

(2) まわりの人の協力・地域のボランティア

小学校に休日世話をしにきてくれる人学校によっては校庭開放の監視の方がえさをやってくれるところもあります．また老人会の方がえさやりをかって出てくださっているところもあります．

百道浜小学校のGさんは，毎週，ブロッコリーや人参を持ってきてくださる

福重小学校の校庭開放員のKさんは，戦争中はうさぎの世話をするのが子どもの仕事だったと・・

うさぎの家を作ってくださるTさん

中川先生（全国学校飼育動物研究会）のアドバイスを受けて今年は底板付きで間口を狭くしてくださいました．飼育小屋の構造上，風が冷たい学校などに寄付しています．

冬越しのわらをくださるSさん

（いくらでも持っていってよいと軽トラも貸してくださいます）

野菜をくださる八百屋のBさん

（長期休業中は給食がないので野菜の外葉などをとっておいてくださいます）

こちらが求めれば獣医さんも地域の人も関心を持って助けてくださる方がたくさんいることに感謝をしつつ，学校内で親子でえさ当番など工夫して保護者の協力を呼びかけていくことも今後の課題として大切かなと思います．

おわりに

ユキノスケ事件の例を挙げるまでもなく，児童がウサギやチャボを大事に抱えその重みと体温を慈しんでいるかのように穏やかに過ごしている姿を見ると，彼らの心に何か種を蒔いているような気がします．それは，計算ができるようになる，漢字が正しく書けるようになるといった確実に目に見えるものではありませんが・・・・．

「ウサギも人も犬も猫もみんな同じように生きている」中岡獣医師がいつも口にしていることです．動物を飼ったことのない児童も学校で飼育動物をみんなで飼育することで命の大切さを，自分のこと，自分と違う他を認めることを体験していくのではないでしょうか．命の営みに寄り添うことができれば，自分の命，隣の友達の命，小さな動物の命も大切にすることができると考えます．

学校飼育動物をもっと有効に活用して児童に「いのちってあったかい」とふれあい体験を多くさせること，まわりのサポートを得ながら飼育環境を整え，飼育動物も幸福に生を全うできるようにすることをさらにこれからも追求していきたいと思います．

どうぞ，よいアイデアなどがありましたら，お教えくださいますようにお願いします．

（福岡市立飯倉中央小学校教諭）